

ヴァーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第 3 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-5
TEL & FAX 0423-95-9788

容器包装新法

元年を迎えて!

理事長 紺野武郎
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

いよいよ新法実施を四月にひかえ、今までのリサイクル活動にも少なからず影響があるものと推察されます。

昨年十二月七日、関東弁護士連合会が主催した「容器包装法をめぐる激論シンポジウム」に、パネラーとして参加しました。

国(厚生省)・自治体・市民・業界・企業の代表など七名が、梶山弁護士会のもと激論を交わしました。

企業責任が法制化され一歩前進と言う意見よりも、発生抑制の効果は期待できず、むしろ企業の「新たなごみ捨て場」に利用されて、ごみの絶対量は減少しないのではと危惧する声が強く出されました。

この法律の問題点は自治体に回収・選分加工・保管の費用や中小の適用除外企業の負担分まで莫大なコスト負担を求め、事業者負担は極一部に限られていること、行政施設が増大し民間施設を駆逐し兼ねないこと、リターナブルびんのような再利用品が激減しかねないこと、指定法人の動きや資源物の受け皿が不透明なこと、など多くの疑問が指摘されており、加えてリサイクル事業が国によって規制される部分も多くなると懸念されています。出席した厚生省担当官も、本法を運営してゆく段階で不合理な点があれば、時期を問わず速やかに改正すべきだろうとの私見を述べられました。

実現など激論が続きました。どのような法律であれ主権者であり納税者である市民がそして自治体が、循環型社会づくりに毅然とした意識と行動を持って監視すれば、市民法に改正できると言うのが隠された結論だったと思います。昨年『東京ルール』づくりに参加して、ペットボトル回収などで都独自のシステムをやらせたはずでしたが、飲料容器業界などが新法を盾に抵抗しているようです。東村山市では、市民と市職員が一体となってごみゼロの街づくりに、挑戦しております。「ひがしむらやま市」が市民の手で「ひとがうらやむ市」に変身したとき、容器包装新法の賞味期限は切れるのかもかもしれません。

本号の『直言拝聴』には、その市民協議会々長としてご尽力下さる渋谷謙三氏の哲学と信念をご寄稿頂きました。

直言拝聴

『ゴミから日本の
社会を考える』

東村山市秋水園再生計画推進市民協議会

会長 渋谷謙三

●ゴミを出さない社会と
ゴミを増やす社会

「日本人は、なぜゴミのことばかり調べたがるのかと聞かれて、私はいつも困るのよ」

先般、私がフライブルク市（ドイツ）を視察した折、現地で通訳をしてくれた今泉さんが洩らした言葉である。

フライブルク市は人口二十万の都市だが、街の中のどこを探しても飲料水の自販機は見当たらない。当然、空き缶もコロがってはいない。

市民は、買い物には自分の籠か袋を持ち歩き、土産物を買っても、包装はザラ紙一枚にくるんで渡されるだけだ。お店は日曜は休み、平日でも午後六時には、シャッターが降りてしまう。

市内は、大学の街と呼ばれる位若者が多いのに、バイクには乗らずみんな自転車だ。中心街の周囲約一・五キロをリングと呼ばれる道路が走

り、車はそこから中には入れない。もちろんバスも同様だ。中心部は歩く人と自転車と路面電車だけの、排気ガスの無い安全な街にしている。

ドイツ人の食べ物は驚く程質素だし、なるべく再生品を使うという。築八十年の住宅より、百年前の建物の方が高価だとも聞いた。国はゴミになつて処理に困るものは、製造を規制したり、企業に回収を厳しく義務づけている。つまり、みんながゴミを出さない社会を保とうとしているのだ。

日本はどうか。言うまでもないが、店頭にも街頭にも商品が溢れ、お金さえ出せば真夜中でも好きなものが手に入る。足元には空き缶やゴミが散乱し、人々は渋滞で身動きできない車でじっと耐える。国の法律も企業保護が優先し、高負担の回収が自治体に押し付けられる有様だ。

私たちは、自らゴミを増やす社会を作りだし、そこで生活しているというわけだ。

ドイツ人から見たら、日本は当り前のことをやらずに、何を馬鹿なこと騒いでいるんだと言いたくなるのだろう。

日本のゴミ問題の本質は、ゴミ自体の処理もさることながら、むしろ日本社会そのものに、より大きい問題があると言わざるを得まい。

では私たちは、これから何をどうすべきなのだろうか。

●買う事より、創ることの

喜びを取り戻せないか 私たちは、戦後、物質の豊富なアメリカに憧れ、見習うことばかりを考えてきた。

お陰で、簡単に得られる筈のない「自由」の大切さは味った。これは失いたくはない。しかし、同時に、人間の幸せは物を買って手に入れることにあるという「錯覚」まで

身に着けてしまったようだ。
ブランド品にばかり目が行き、それこそが自分を光り輝かせてくれるものと思ひ込んで。東大法学部に入り、高級官僚になりさえすれば、何をしてもいいなどという勘違いは、まさしくその典型だ。

しかし、幸せはそんな衣を着ただけで決して訪れない。人間の本当の喜びは、自身の持つ個性や能力が、社会で認められ通用する場合だ。

地位や財だけでは、それが失われた瞬間に全てがゼロと帰するが、身についた価値は失われないからだ。

私たちは、自ら物を創り出す喜びを取り戻す必要がある。子供たちに自然の恵みの偉大さを教え、自ら木を育て花を咲かせて街を美しくさせる人や、古い衣服をリホームして我が子に着せることに喜びや誇りを見だせる親たちを増やすことが、一億総物欲列島

となった日本を生きかえらせる唯一の道ではあるまいか。

私は、日本のゴミ問題の解決策は、まぎれもなくその延長線上にあると思っている。恐らく、このことに異論を唱える人は少ないであろう。

昨今の自治体のさまざまな施策に、なぜ、この大事な事柄に意を注がれたものが少ないのか、私には不思議に思えてならない。

●秋水園再生計画の哲学は

ゴミを安易にお金で解決しないこと

今年の四月に提言した東村山市の秋水園再生計画は「ゴミを燃やしたり埋立てしないで、九十%以上資源化する」という基本理念を打ち出して各地に波紋を巻き起こした。

しかし、計画づくりに至るまでの経緯や、市の置かれた状況をつぶさに観察して貰えば、協議会のメンバーたちが

如何に地球世論の動向と地域の人々の願いを真摯に受け止

め、実現の可能性を見出す努力を積み重ねたものであるのか

かが分っていただけだと思う。

私たちは、東村山市の置かれた状況を、次の四点とした。

一、地元住民は、消却からの有害物を極度に危惧している。
二、最終処分場は出来ても、いづれ満杯となり問題は残る。
三、市民の誰もが、ゴミは再利用すべきだと考えている。
四、市財政は逼迫している。

この結果を素直に表現すれば、ゴミを燃やしたり埋立てる危ないことは避け、少々面倒でも市民でやれることはやり、高価な機械に頼らないで資源化させる方向で努力しようという計画になるわけだ。

これは、地方自治体の判断としてごく当たり前のものだ。

すでにお気づきだと思いが、この計画の背景には、現状の「ゴミを増やす社会」からの

脱出という意図や願いが強く込められている。

いま、新たな協議会が発足し、推進策の検討がなされているが、先はプラント導入のことより、市民の手での減量、資源化のための分別排出の方法、市民意識のレベルアップなどの研究を優先させている。

これは、安易に物を買って入れることを避け、みんなの知恵と汗で新しい市民システムを創り出す苦勞と喜びを味わうことにもつながっている。

これからの社会は、ゴミだけ解決して済むわけではない。高齢化社会や環境保全の問題なども、市民の目覚めと協力がなくては、行政だけで解決することは不可能であろう。

秋水園再生計画は、ゴミをテーマに据えた、新しい市民社会づくりへの壮大な挑戦であり、真の行財政改革への第一歩でもあると言ったら、言い過ぎだろうか。

集団回収引取り無料化の是非

昨年の夏頃から再び古紙価格が値下りし、年末にかけてさらに統落が予想されるため、小平市・東村山市・東久留米市・田無市・清瀬市の各市長宛てに集団回収業者にも何等かの助成策を講じて頂きたく、九月中旬に要望書を提出致しました。この事はヴィーナズ通信第2号に於いてお知らせした通りです。

これを受けて去る十一月当組合定例理事会の集団回収委員会報告に於て、各市に助成の要望をお願いする程、状況が厳しいのだから各回収団体に回収価格の無料化をお願いしてみても、と言う提案が出されましたが、無料化になると各団体との絆が切れる恐れが有ると言う意見が多く出され、当面は低価格でも今迄通り標準価格を設定せざるをえないのではとの意見が多数を

しました。

しかしながら予断を許さない状況に変わりはなく、理想的なりサイクルシステムと言われる集団回収を壊さないためにも回収団体の皆様の御理解と御協力を切にお願ひ申し上げます。

『第4回TAMAとこん討論会』開催

昨年一〇月一九、二〇日の両日、二四時間の討論会が多摩市のCSK情報教育センターで開かれた。

一回目は『TAMAらいふ21協会』の活動の一環として行なわれたが、その後、多摩リサイクル市民連邦が結成され、連邦人達の手作りで引継がれ、重ねて四回目となった。今回のテーマは、ごみ収集のあり方や生ごみ・廃プラ・廃

又各市におかれましても、集団回収システムが壊れれば、莫大な血税が必要になることを御理解頂きまして、至急助成策を実施して頂くことを重ねてお願いする次第です。

(集団回収委員長 小畑)



『第4回TAMAとこん討論会』開催

家電リサイクルについてなどで、各論の部分に踏み込んだ活発な討論が進められた。四年前(第一回)の時は、大企業の参加など殆どなかったと思うが、今回は積極的に参加して、リサイクルへの取組みをPRしており、今や『環境』を売り込めないような企業に未来は無いのではと言う印象を強くした。また、言葉だけの「ごみゼロ」

ではなくて、脱焼却・脱埋立を具体化するために、生ごみも廃プラも雑紙も完全に資源化をしようと言う市民行動が本格化し、各自治体も本気になって取り組もうと言う意識変化を感じた。

従って、物を作る段階の素材や構造の見直し、流通・回収・解体・加工まで考えた一貫した物流・リサイクルシステムの開発、新たな役割分担などの議論が多かった。我々資源回収業界としても、環境に好結果をもたらす省エネ・少コスト対策を盛込んだ業界としての提言を示すことからはじめ、その結果出てくる需給対策やコスト負担そして役割分担を社会問題として投げつけて行かなければ議論の輪の中に入ることもできないような、それほど真面目な市民討論会に成長していることを痛感した。(T・K)

アルミ工場見学レポート

十月二二日、東村山市資源回収を楽しくすすめる会の、

アルミニウム工場見学に参加し、静岡県裾野市の二カ所の工場を見学しました。

①大手金属(株)

ここでは、九州から名古屋地区または関東近県のアルミ缶リサイクルセンター(新菱アルミ)九カ所からシユレッ

ター(破碎)されたアルミ缶が大型トラックで運び込まれて、敷地はアルミ缶の山ででした。

鉄やゴミはすべて取り除かれており、きれいな砂山のよう、そのアルミ缶は、約七五〇度の温度で溶かされてインゴット(固まり)になります。ひとつの重量は約七七〇kgです。約四〇名の従業員で月間四千トン生産してるそう

10~12月資源化、古紙在庫増加

1996年10月~12月 組合の資源取扱量(単位Kg)

	古紙	古布	カレット	生きビン	鉄・非鉄
小平	1,488,130	141,545	258,290	110,374本	220,424
柳泉園	1,375,690	124,120			
東村山	435,490	70,290			
東久留米	172,850				122,780
東大和			65,690	35,200本	
合計	3,472,160	335,955	323,980	145,574本	343,204

当組合の今年度10月から12月までの3ヶ月間の資源物の取扱量は上記の表の通りです。古紙は前3ヶ月より二百六十トンほど増えていますが年末に来て出荷が鈍り、滞留在庫を加えると上記の数字を大きく上回ります。古布類は衣替えの季節だったので大幅に増加しました。古紙の流通に暗雲が垂れこめています。

資源物標準価格表

12月10日現在	12月10日現在
新新聞 1円	新新聞 6~7円
新雑誌 0円	新雑誌 0.5~1円
段ボール 1円	段ボール 6~7円

12月に段ボール・雑誌のメーカー価格がさらに、1円下がりました。12月は行政の発給が予想され、余剰は行政回収の必要が。

です。そのインゴットは四つの製造工場に出荷されそのひとつの工場がすぐ近くにある三菱アルミニウム(株)富士工場でした。

②三菱アルミニウム(株)富士工場

広さ約六六、〇〇坪の敷地に板圧延箔圧延押し出しというアルミニウム加工の全部

門を従業員約八五〇名を擁する日本でも有数の総合圧延工場でした。この工場ではインゴットをもう一度溶かして五トンから六トンのスラブ(厚さ七〇cm幅九〇cm長さ三m大きな洋かんのような)を五〇〇度ぐらいの温度であたためてローラーふたつのあいだをいったりきたりしながら段々薄くして最後には〇、三mmの厚さになり、これが缶の材料になります。その他、板材これは厚さが自由に出来、サツシの材料や箔材料となり、アルミは何回りサイクルしてもアルミになります。

アルミの新地金を作る時のエネルギーを一〇〇とすると再生地金を作る場合は約三%のエネルギーで作れるそうです。いかにアルミ缶のリサイクルが大切かを担当者から聞かされました。また、工場内に大きなカゴがあり、アルミ缶の入ったビニール袋がたく

さんはいってました。それは地域の住民がリサイクルの為持ってくるそうです。一個一個で買取り、年間六〇万個ぐらい集まるとのことでした。平成七年度の回収率は六五%になりました。日本で販売されたアルミ缶は約一五九億個、リサイクルされた缶は約一〇三億個です。またスチール缶とアルミ缶の比率はスチール缶五五%アルミ缶四五%で、まだスチール缶が多いが、近年中には逆転するでしょうとのことでした。

将来あらゆる分野にアルミ缶は活用されるとのお話でした。

道中の素晴らしい富士山とその裾野のススキと紅葉を工場見学と共に堪能してきました。
(藤野記)

<アルミ缶の表示>



夢見鳥

仕事をしながら思う時がある。リサイクルって言いながら自分で自分の首を絞めながら仕事をしているなあと。確かにいまの世間の流れで行けばリサイクルは国民の当然で当たり前の義務になりつつある。それはそれで良い事だと思ふ。がしかし自分の保身を思うとただけでない事態になって来ると心中穏やかではないのだ。

行政は動き出し国民の意識は高まりそれ資源を守れ！リサイクルをドンドン推進して行く！良い事ではないか？自分に自分で言い聞かせているのだがいまいच्छり来ない。心の中では、オイオイあんまり新聞や雑誌なんかを沢山集めてくれるなよ！どんな価格が下がっていくし、品物が余って荷止めなんて日にやあどうしてくれるんだなんて。そんな事を考えていてふと、我に帰るとなんて心の狭

い人間なんだ！と思う。しかし、オレは食って行かなければならないのだ。そして食って行く為に新聞や雑誌を集めていくのだそして自分で自分の首を絞めると思ひながら？そんな心配などせず地球の為に日本の為に地域のみさんの為にそして最後に自分の為になんて余裕をもって自信を持って自分の仕事に打ち込んで見たい。おもいっきり自信を持って。ガンバレ俺。
(古紙巻)

ソフトボール大会

私達の職場である小平リサイクルセンターでは、年に一度、ソフトボール大会に参加しています。小平市の収集業者と、私達リサイクルセンターで働いている人達との親睦の大会です。その大会も三年目を迎え、今年は一回戦で昨

年の優勝チームを撃破、二回戦に進むことができ凄く嬉しかった。二回戦は、得点0で残念ながら負けました。しかし、雨がパラツク寒い日だったが、ケガもなく和気あいなの中、楽しい一日でした。ちなみに一年目も二回戦ま

で駒を進めました。八月の暑い最中の試合後、冷えたスイカと泡の出るお茶で、反省会、本当に旨かった。二年目は、初戦で敗北。私達チームは女性も参加しております。もつと皆さんで参加し、一年一度の大会を楽しみたいと思っております。
(沢村記)

私の履歴書

有藤本チエーン

②

代表取締役社長 藤本俊光

上から読んでも下から読んでも『やまや』その山屋旅館が私の生家。私が四才の時、父が死亡、私は父の顔も声もそして父親の愛情なんてものは全然知りません。

父の死で残されたのは庭が五つもある大きな料理旅館と田と畠で一町歩、そして数多い子供達と多額の借金、それから母の奮闘が始まるのです。宴会、二次会、後始末、泊まり客の朝食、子供達の弁当、昼は傭仕事、母の寝た姿を見た事がないと云っても過言ではありません。『子供は親の背を見て育つ』と申しますから、この母にしてこの子ありで其の子の人生次々と綴りましょう。其の母も丈夫で八八才まで生きました。

小学生だった昭和六年、大

きな藤棚の下に全校生を集めて校長先生が満州事変が始まったことを報告されました。私の家は大きいけれど借金はだらけでお金がないから進学は望まず、尋常高等小学校で我慢するしかなかった。でも卒業と同時に兵庫県庁の給仕に採用され夜は兵庫県立第二商業学校に通いました。其の年、神戸に大水害発生、知事

室勤務の私は徹夜で水害対策に活躍される人達の手足となって頑張ったのです。時の兵庫県知事は関屋さんでした。

次の年の春、ヒョンなことから単身渡満することになったのですが、それは数え年一六才の時でした。

ビン・カン選分何が出る？

私は、小平リサイクルセンターで働いている者です。ここでの作業内容は、ビン、カン、ボロ、紙の分別作業を行って

います。ビン作業は、収集した資源物を破袋し、ライン作業で色別します。ビンの場合、危険を伴いやすいので、メガネをかけたがり、ゴム手袋などをして作業しています。

ビンやカンの中にはいろいろな雑物も混入しています。

たとえばスイガラ、チリ紙、生ゴミ、セト物、ひどいものでは避妊具なども入っている事もあります。また、医療用注射針や包帯なども出てきます。一瞬手がとまるほどびっくりした物にはへビのビン詰めなどがありました。また犬や猫のえさ缶も臭いがひどく夏の暑い時期はどうしても厳しい作業になります。

最後に、市民の皆様、資源物はきれいに分別してビン、カンなどは良く水洗いして出して下さるようお願いいたします。

(石川記)



訂正

前号7面、「資源物を出される皆様へ」の記事で平成四年十月は平成五年、平成五年二月は平成六年の誤りでした。

独り言

品物が山のようになって病気になることを何と云うのでしょうか。

古紙痛(こしいた)? いや、いやもっともっと重い病気ですよ。**癌**と云うのです。

早急に外科的な処置施さなければ、古紙でも、カレットでも、ペットボトルでも、いや日本の国そのものが不治の病になるのではないのでしょうか?

つぶやき

昨年は、最後に来てオリックスなんか優勝するから途中迄盛り上がった消費動向が下降してしまった、どうしてくれるんだオリックス。有馬記念がはずれたのも、もしかしたらお前らのせいだ。今年の誓い、巨人の日本一、競馬の勝利、厚い財布、この3次元方程式を完成させるぞ。

(外れ一刀)

行事・行動

(十一月)

- 二日：小平リサイクル業者ソフトボール大会
- 三日：東京ごみ集会
- 七日：保谷市ごみ減量審
- 一日：理事会
- 一日：集団回収委員会
- 一八日：東久留米ごみ減量審
- 二〇日：事業安全委員会
- 二五日：三菱アルミニウム富士工場視察
- 二八日：古紙センター業務委
- 二八日：広報委員会
- 二九日：小平市ごみ減量審
- 三〇日：小平ソフトボール会(十二月)
- 二日：広報委員研修会
- 二日：健康診断
- 五日：委託事業委員会
- 六日：健康診断
- 七日：関東弁護士連シンポ
- 一〇日：理事会
- 一日：東久留米ごみ減量審
- 一二日：リサイクルC納会

一六日：広報委員会

〃〃：東久留米市庁舎移転

二八 資源物引取り

二〇日：古紙センター 古紙

分別モデル事業委

二四日：リサイクル団体連

二八日：仕事納め

(正月)

六日：仕事始め

一日：理事会

一三日：東久留米ごみ減量審

二三日：各委員会交歓会

三〇日：古紙センター業務委

三二日：事業安全委員会

リサイクル川柳

厚生省 毒と薬も見分けられず

駄目亭主粗大ごみさえ有料化

また出勤 たまにやなりたい

ワンウェイびん

(ネジまわし)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。ヴィーナス通信の内容も胸を張って新年号ですといえる内容に出来上がったと思います。直言拝聴にご寄稿下さいました渋谷謙三様、大変ありがとうございました。考えさせられる内容で、是非御精読下さい。便利になるだけではないけないですね。

今年は、丑年です。忙しく動き回った鼠年は、動いたわりには景気は少しも良くならず我々の大事な製紙原料に至っては一二月になると最悪になってしまいました。今年こそ牛をみならって、着実に一歩一歩景気をみんなの力で押し上げていきましょう。

リサイクル川柳をおまちしています。あまり固く考えずに、思い付いたらドンドン事務局迄連絡して下さい。

(吉浦高志)